

2008年3月中間期 決算説明会資料

2007年11月19日

東洋合成工業株式会社

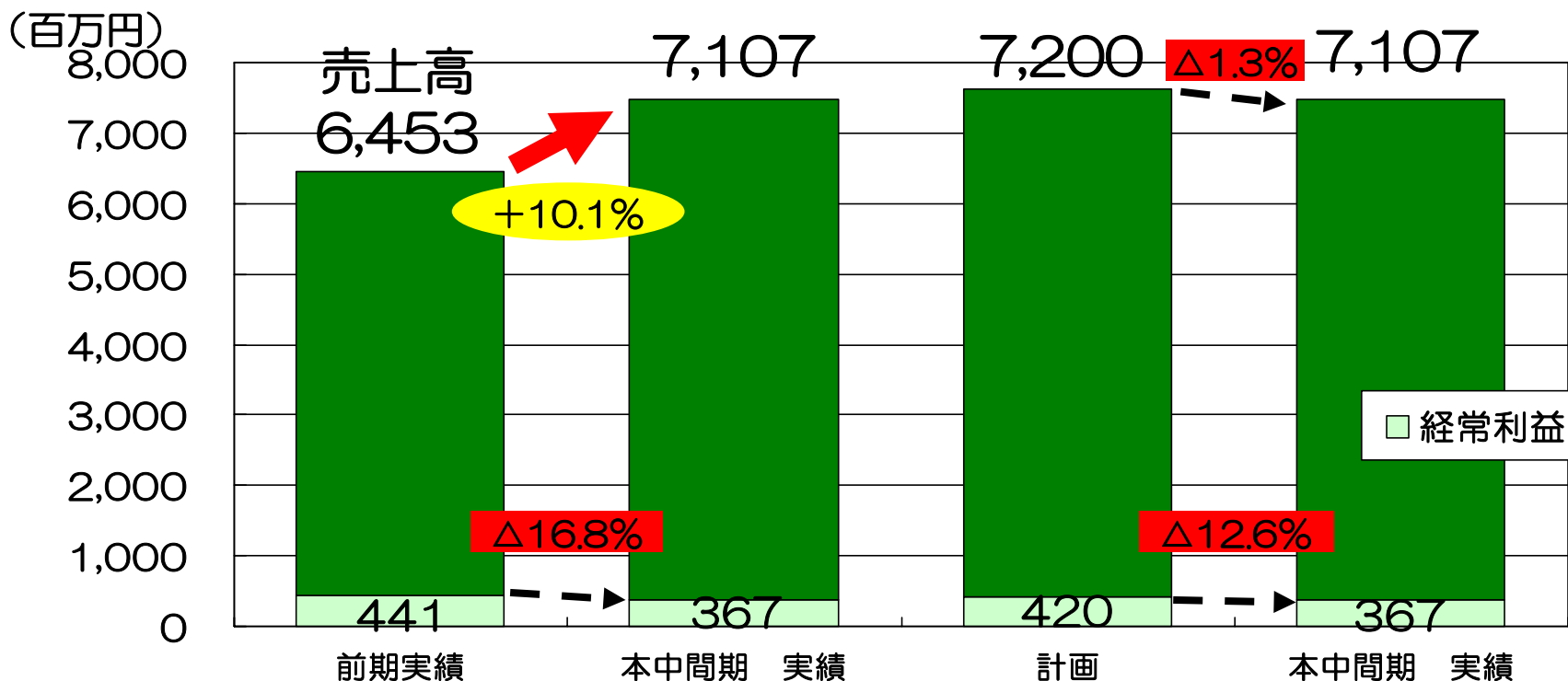
■ 目次

1. 2008年3月中間期 決算概要 P3~16
2. 2008年3月期 通期見通し P17~21
3. 各事業の今後の展望 P22~29

1. 2008年3月中間期 決算概要

2008年3月中間期のポイント

- 売上高は、前年比10.1%増、計画比1.3%の未達
 - LCD向け感光材の回復と香料材料の成長。
- 経常利益は、前年比16.8%減、計画比12.6%未達
 - 原油高による原材料費の上昇と減価償却費など固定費が高水準。
 - 営業、管理部門強化による販管費の増加。



■ 全社 2008年3月中間期 決算概要

科目 (百万円)	2007年 3月中間期 実績	2008年 3月中間期 実績	対前年		計 画	差 異
			増減	%		
売上高	6,453	7,107	+654	+10.1	7,200	△93
感光性材料	3,816	4,141	+325	+8.5%	4,235	△94
化成品	1,871	2,162	+291	+15.5%	2,137	+25
ロジスティック	765	803	+38	+5.0%	826	△23
営業利益	443	417	△26	△5.7%	480	△63
感光性材料	△ 83	△103	△20	-	△50	△53
化成品	259	255	△4	△1.5%	285	△30
ロジスティック	267	266	△1	△0.4%	245	+21
経常利益	441	367	△74	△16.8%	420	△53
中間純利益	282	197	△85	△29.9%	240	△43

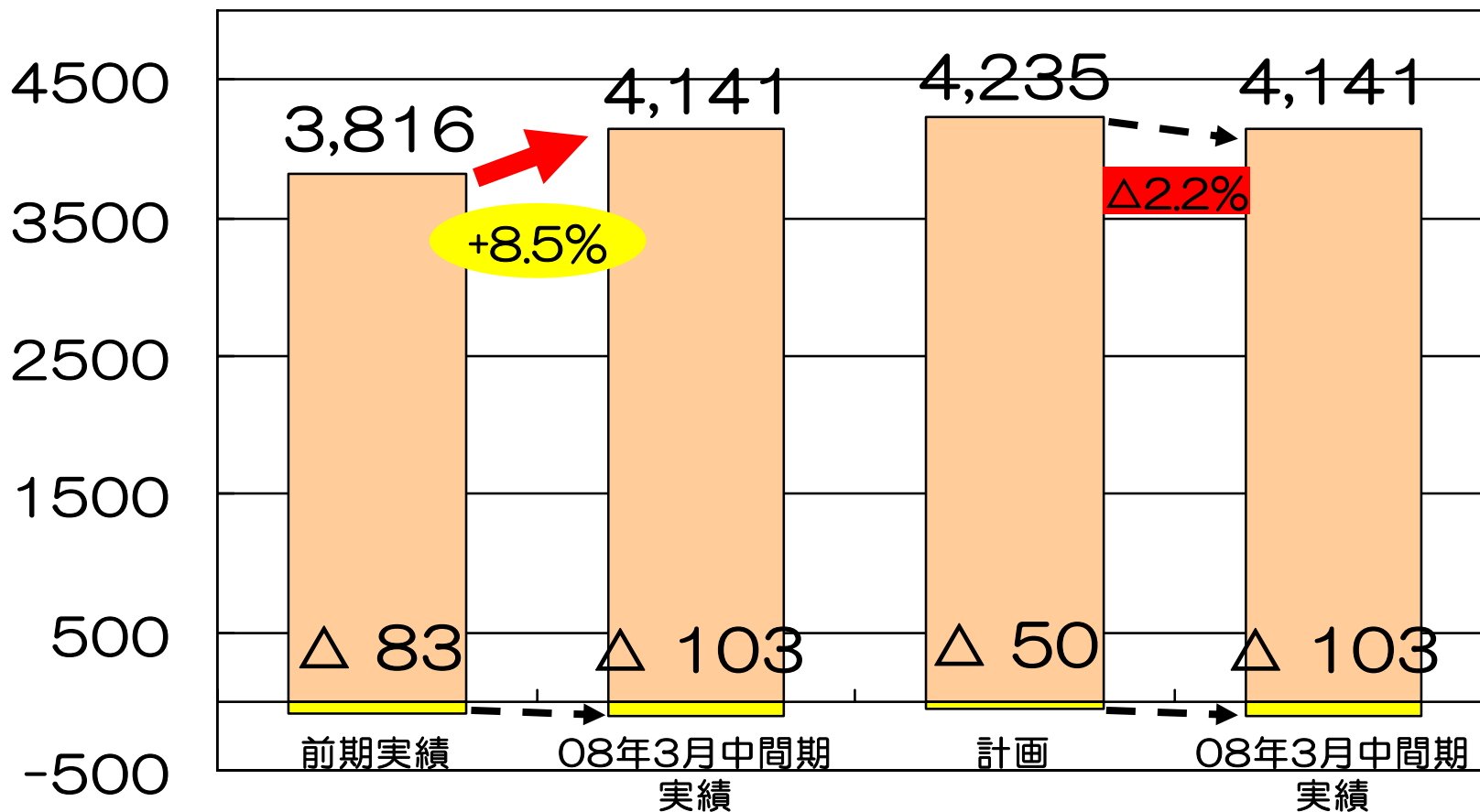
■ 感光性材料事業 売上高・営業利益

・売上高は、前年比8.5%増、計画比2.2%の未達。営業利益は減益。

- ・売上高は前期低迷したLCD用途向けが回復。
- ・営業利益は、減価償却費など固定費が高水準にあり微減。

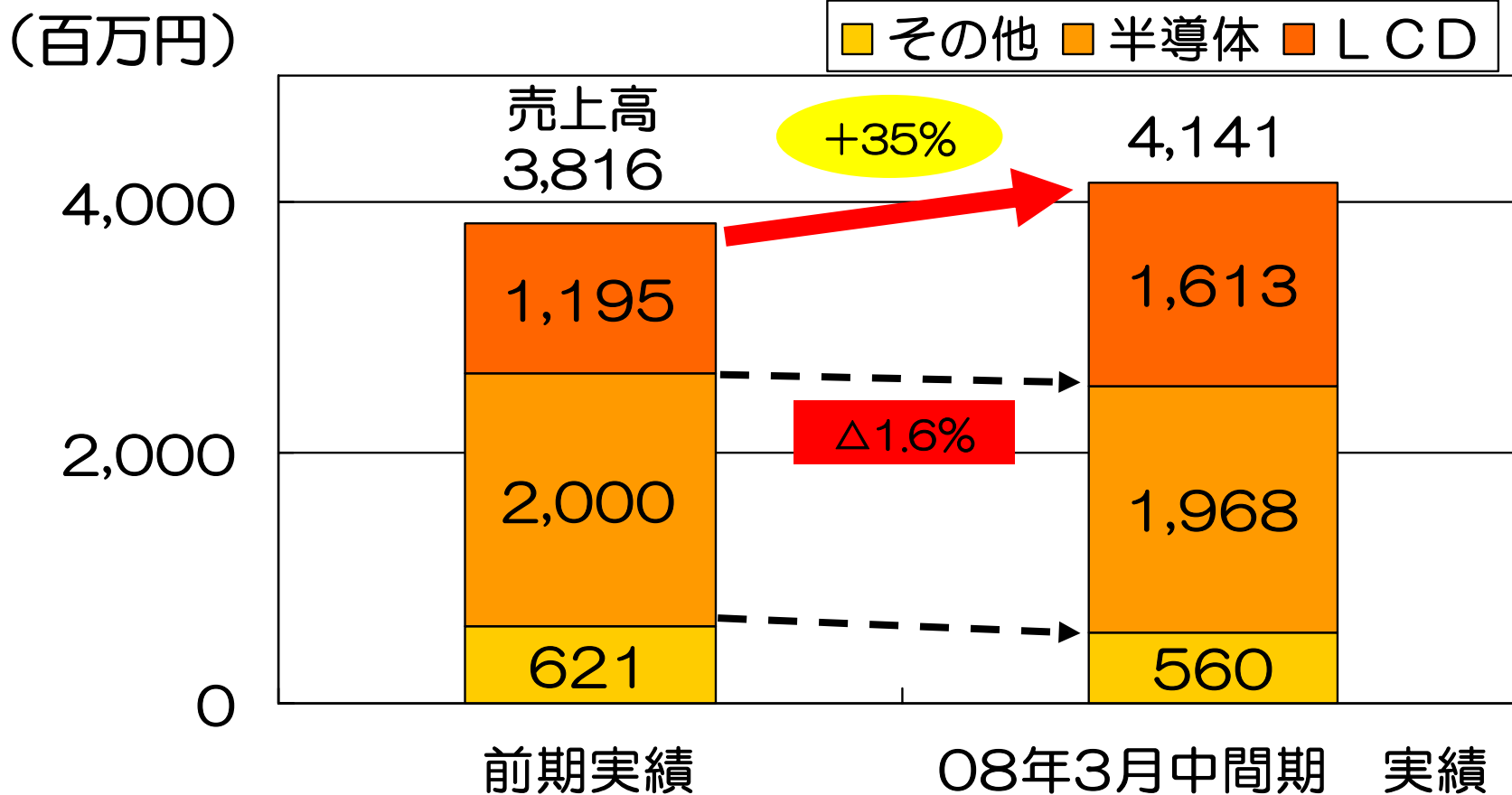
(百万円)

■ 営業利益



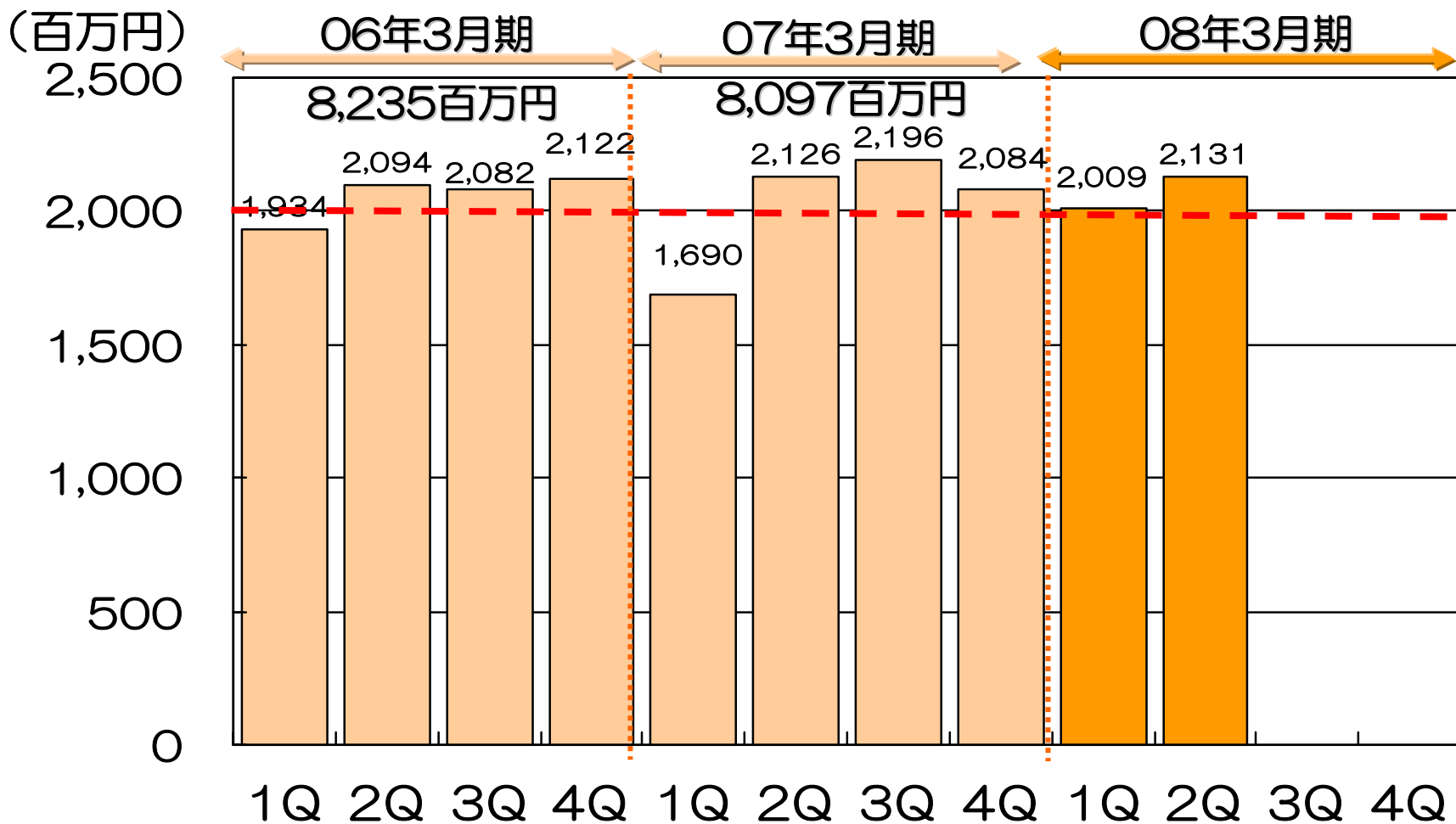
■ 感光性材料事業 用途別売上高

- ・ LCD用途向けは、前期発生した在庫調整から回復し35%の増加。
- ・ 前期好調であった半導体用途向けは、一部での半導体生産調整の影響で横バイ。



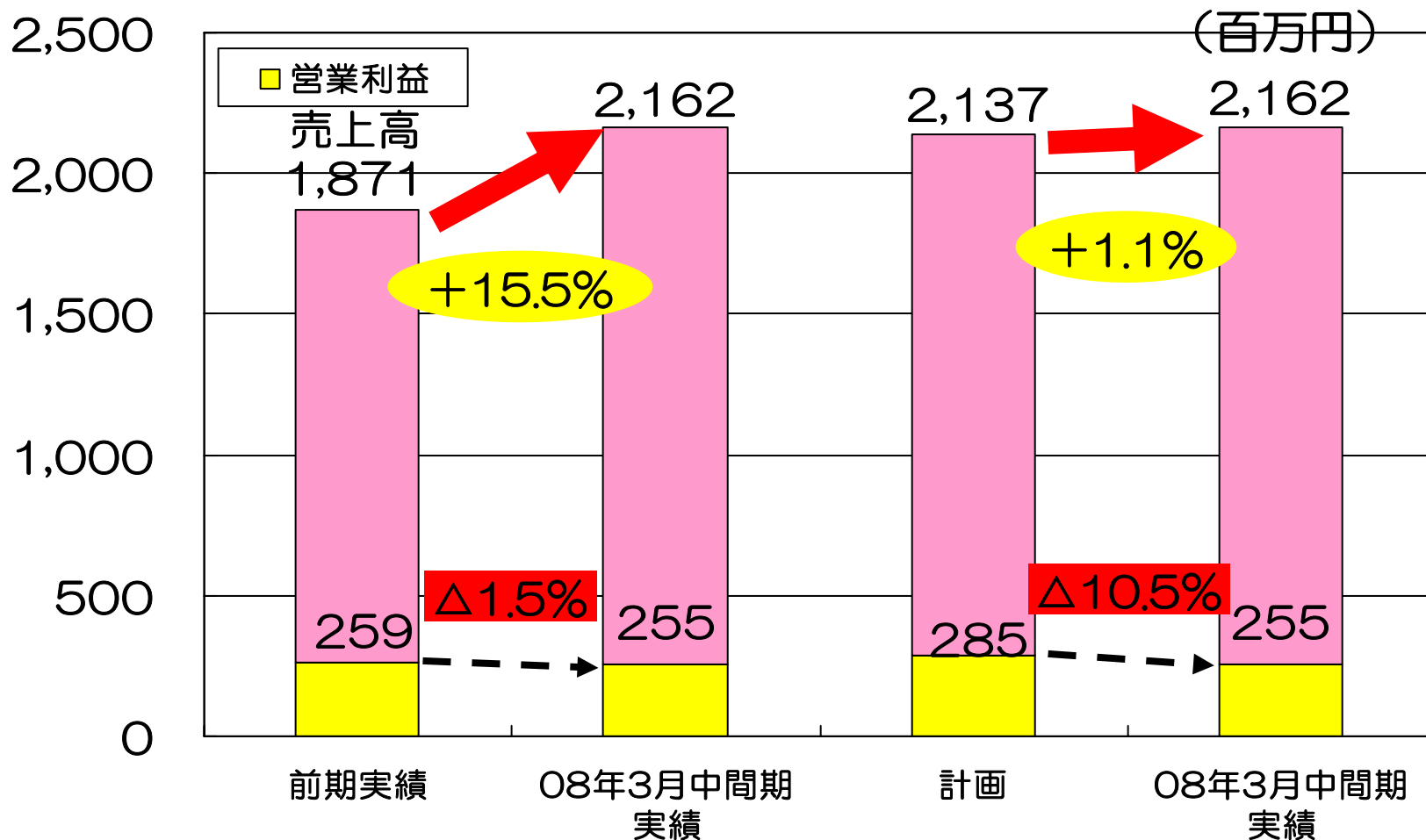
■ 感光性材料事業 売上高推移

- ・ 一部での半導体生産調整の影響を受け、前期4Qから減少傾向。
- ・ 2QはLCD用途向け好調に支えられ回復。



■ 化成品事業 売上高・営業利益

- 売上高は、前年比15.5%増、計画比1.1%超過。営業利益は微減。
 - 売上高は、香料材料が大きく成長。
 - 営業利益は、原材料費の上昇などにより前期と同水準。

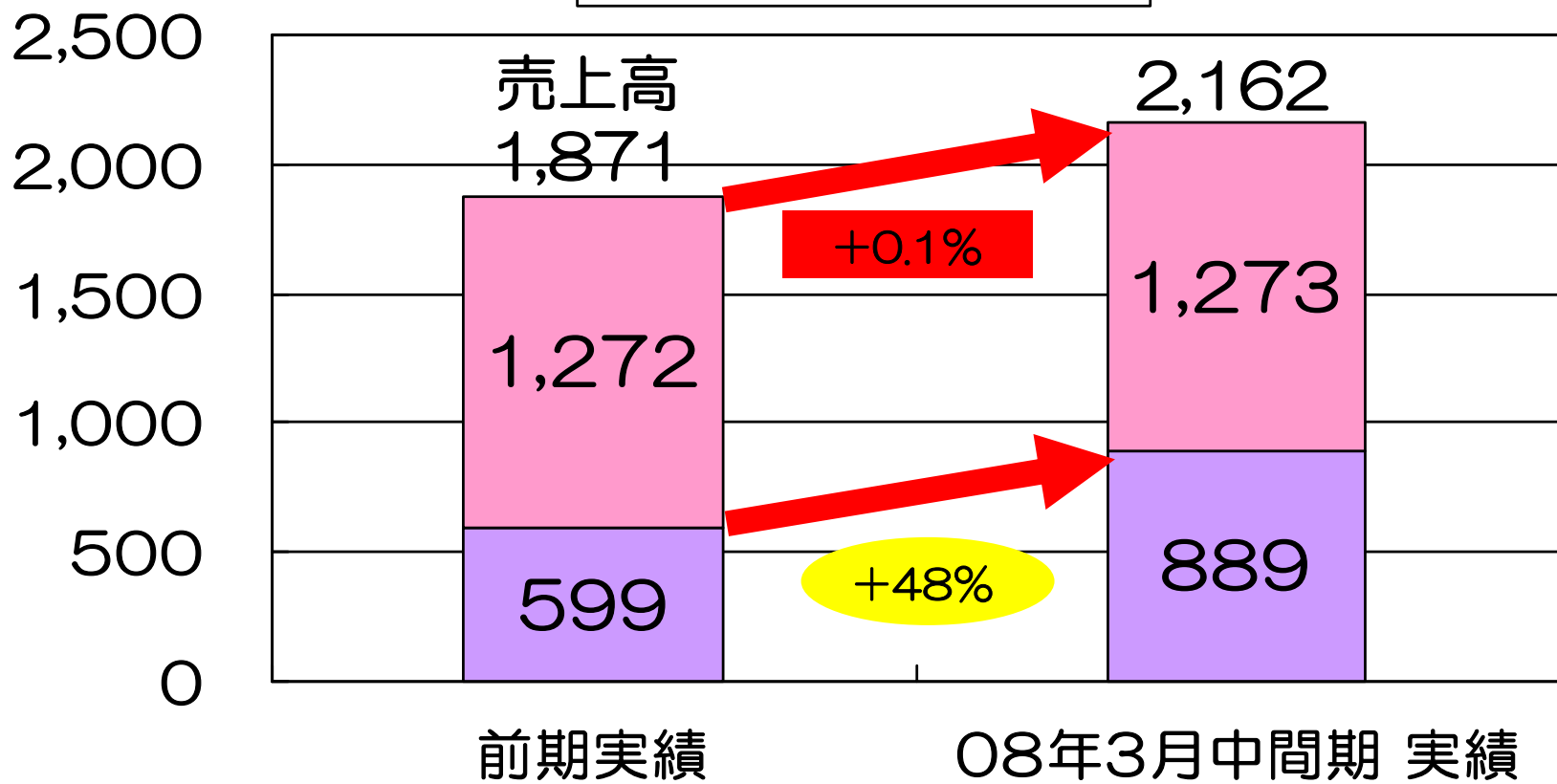


化成品事業 用途別売上高

- 香料材料は前期比48%増
 - BRICsなどの経済成長。
 - 営業努力と当社製品の“高品質”が評価され需要拡大。
- グリーンケミカル(回収溶剤)の売上は微増。
 - 一部販売先での生産調整。

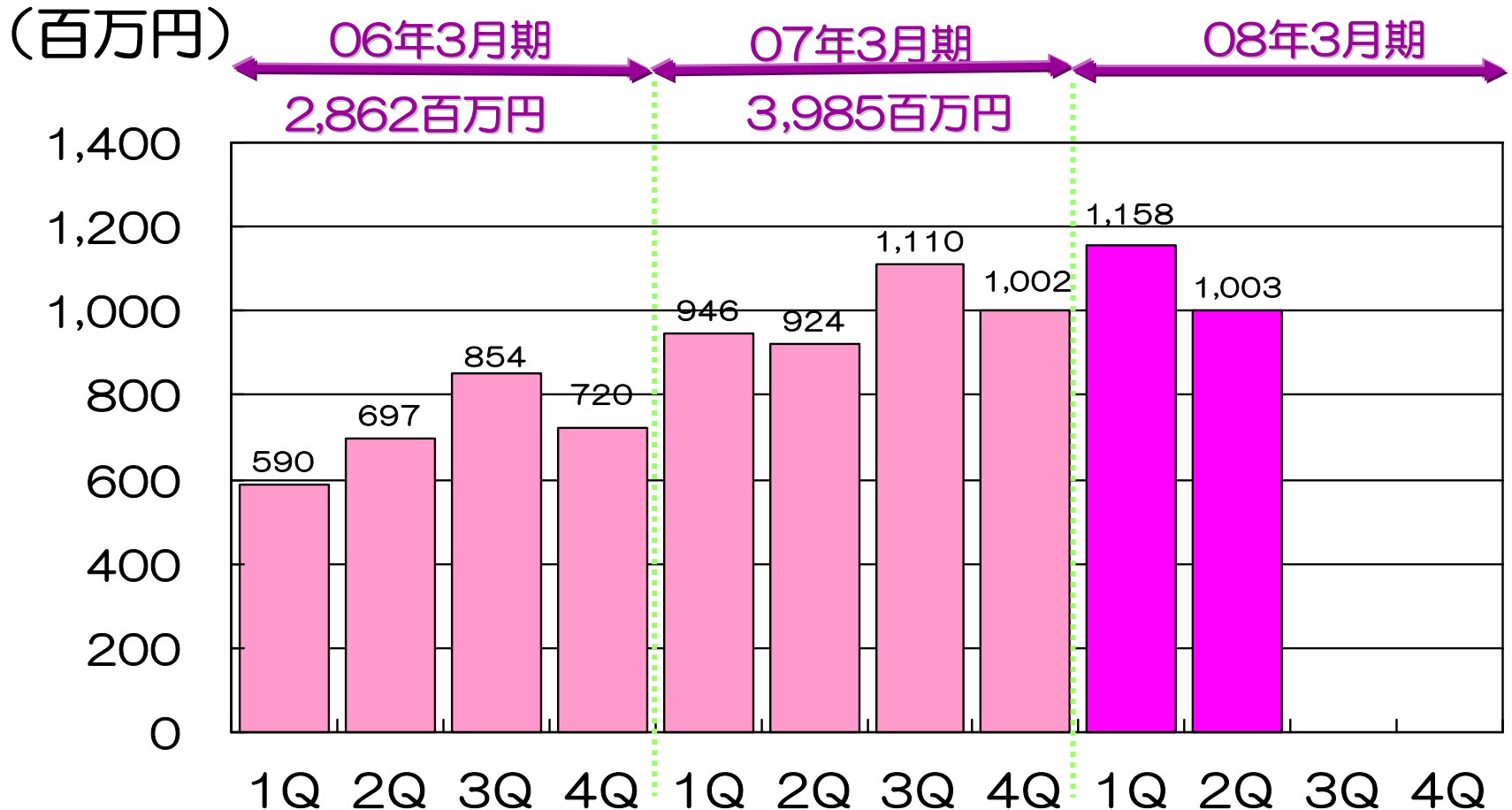
(百万円)

■ 香料材料 ■ 回収溶剤



■ 化成品事業 売上高推移

- 1Qは、過去最高の売上高。
- 2Qは、一部販売先の生産調整でやや減少も高水準。

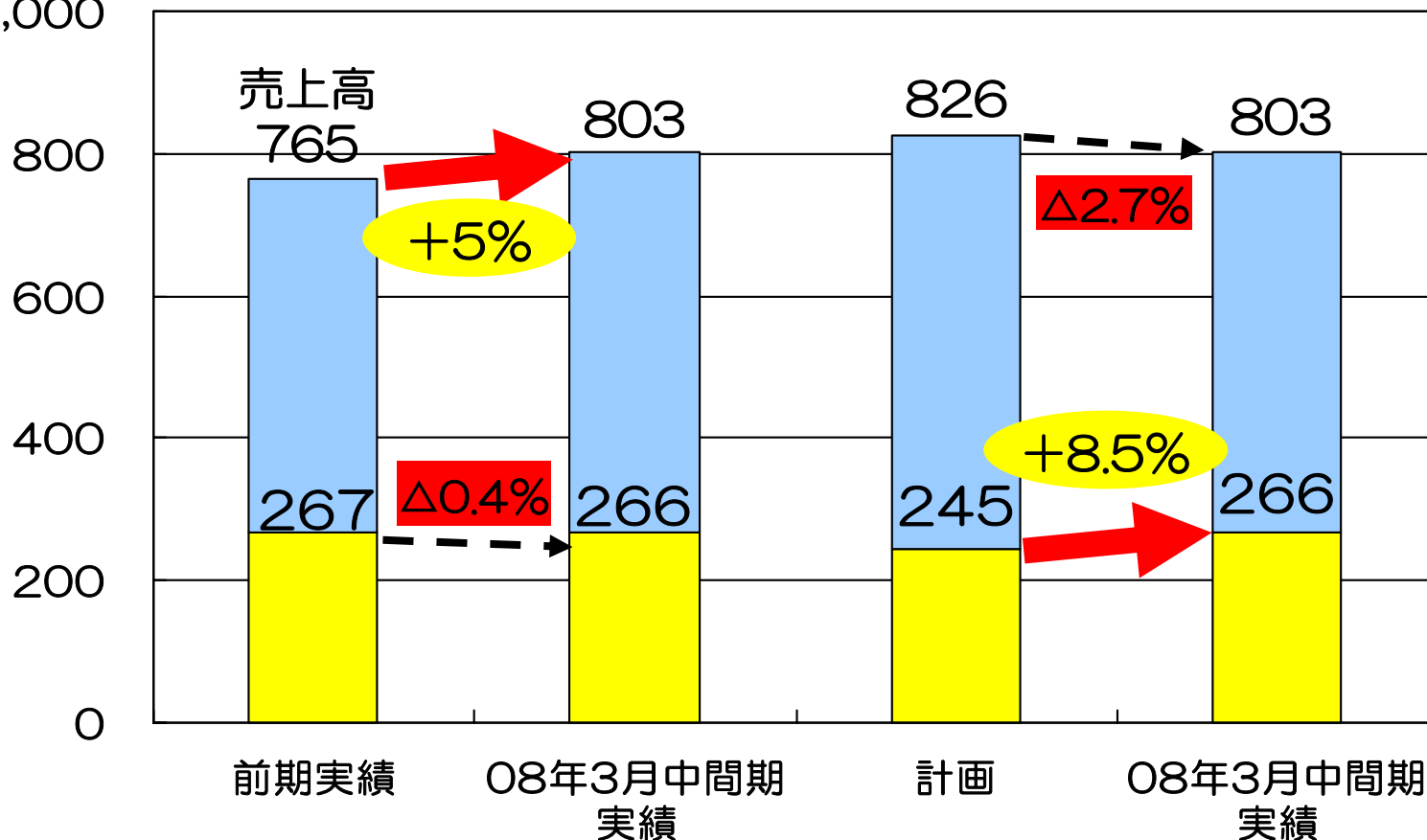


■ ロジスティック事業 売上高・営業利益

- 売上高は、前期比5%増、計画比2.7%の未達。営業利益は微減。
 - 売上高は、新設タンク4基が寄与し増収。
 - 営業利益は、新設タンクの減価償却費増加で微減。

(百万円)
1,000

■ 営業利益



■ 全社 損益計算書

- 売上原価は、原材料費増加などにより原価率上昇。
- 販管費は、営業部門、管理部門強化による人件費の増加

科 目 (百万円)	2007年 3月中間期	2008年 3月中間期	対前年比	
			増減額	%
売上高	6,453	7,107	654	10.1%
売上原価	5,095	5,661	565	11.1%
売上総利益	1,358	1,446	88	6.5%
販管費	914	1,028	113	12.4%
営業利益	443	417	△25	△5.7%
営業外収益	106	72	△34	△32.1%
営業外費用	108	123	14	13.0%
経常利益	441	367	△74	△16.8%
特別利益	-	0	-	-
特別損失	4	47	43	-
税引前中間純利益	436	319	△117	△26.8%
税金費用	154	121	△33	△21.4%
中間純利益	282	197	△84	△29.9%

補助金収入の減少

支払利息の増加

固定資産除却損の発生

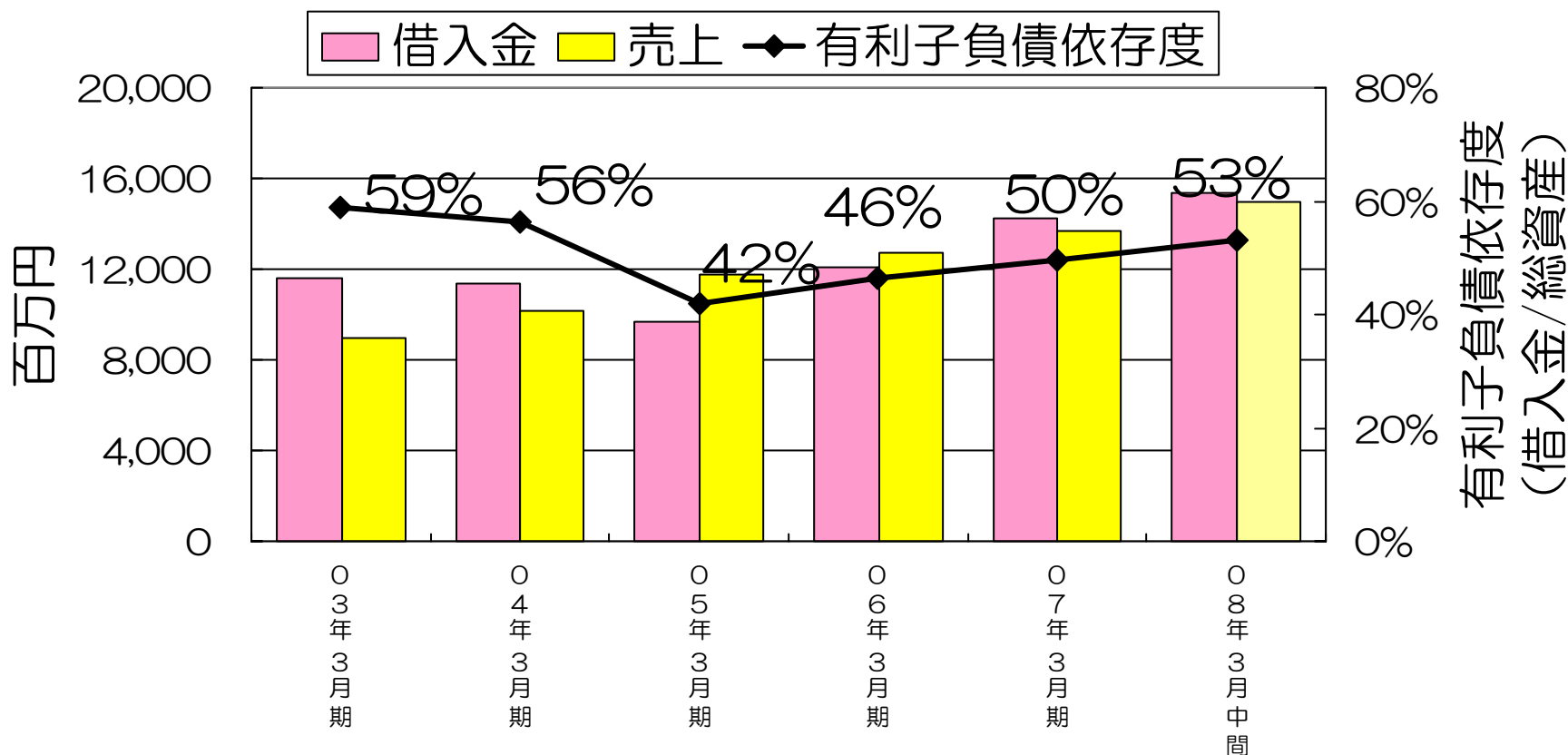
■ 全社 貸借対照表

・ 借入金は、前期実施した設備投資の支払い対応のため増加。

科 目 (百万円)	2007年 3月期	2008年 3月中間期	対前年比	
			増減額	%
流動資産	10,347	11,029	682	6.6%
現金預金	1,491	2,015	524	35.1%
売上債権	3,225	3,135	△90	△2.8%
棚卸資産	5,242	5,549	307	5.9%
その他	387	328	△59	△15.2%
固定資産	17,403	17,199	△204	△1.2%
有形固定資産	16,257	16,078	△179	△1.1%
無形固定資産	177	172	△5	△2.8%
投資その他の資産	968	948	△20	△2.1%
資産合計	27,751	28,229	478	1.7%
流動負債	12,882	12,261	△621	△4.8%
仕入債務	2,174	2,326	152	7.0%
短期借入金	8,383	8,414	31	0.4%
その他	2,324	1,520	△803	△34.5%
固定負債	6,440	7,449	1,009	15.7%
長期借入金	5,363	6,351	988	18.4%
その他	1,077	1,097	20	1.9%
負債合計	19,322	19,711	389	2.0%
純資産合計	8,428	8,518	90	1.1%
負債及び純資産合計	27,751	28,229	478	1.7%

借入金の推移

- 大型設備投資の実施により、借入金並びに有利子負債依存度は上昇。
- 現状では、今中間期が借入金のピークとなる見込み。



(注) 08年3月中間期の売上高は通期予想売上高 (150億円) であります。

■ 全社 キャッシュフロー計算書

- ・ 営業活動によるCFは、前期と比較し改善。
- ・ 前期実行した設備投資の支払い発生で、投資活動によるCFは高水準。

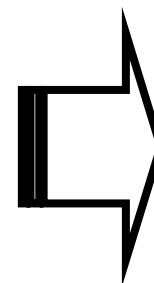
科 目 (百万円)	2007年 3月中間期	2008年 3月中間期
営業活動によるCF	△17	1,092
税引前中間純利益	436	319
減価償却費	1,009	1,021
売上債権の増減額	△ 535	89
たな卸資産の増減額	△ 577	△307
仕入債務の増減額	△ 83	151
その他	△ 267	△181
投資活動によるCF	△ 1,811	△1,524
財務活動によるCF	1,555	959
現金及び現金同等物の増減	△ 272	526
現金及び現金同等物の期末残高	793	1,495

2. 2008年3月期 通期見通し

08年3月期 通期見通し

- 08年3月期通期見通しは当初計画から変更なし。
 - 事業部別の内訳は微修正。

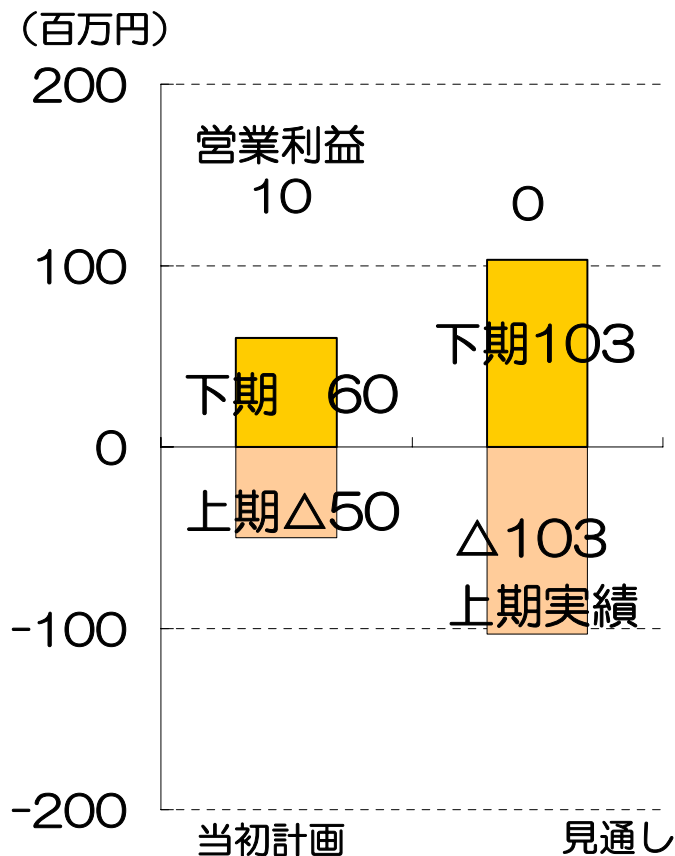
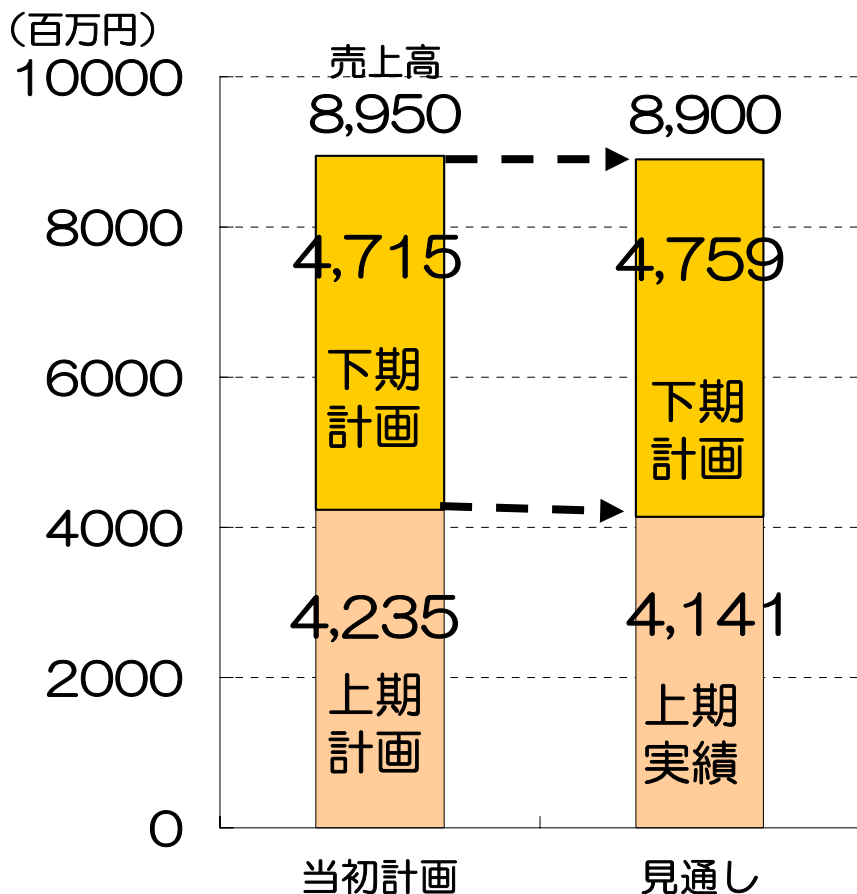
科目 (百万円)	2008年 3月期 当初計画
売上高	15,000
感光性材料	8,950
化成品	4,400
ロジスティック	1,650
営業利益	1,060
感光性材料	10
化成品	570
ロジスティック	480
経常利益	900
当期純利益	530



2008年 3月期 修正計画
15,000
8,900
4,500
1,600
1,060
0
540
520
900
530

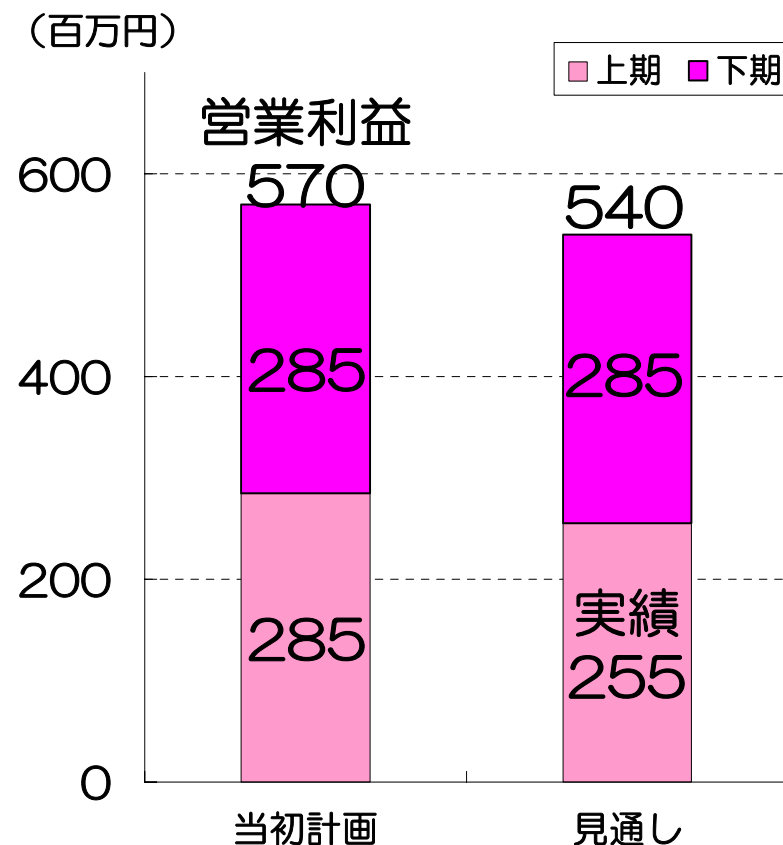
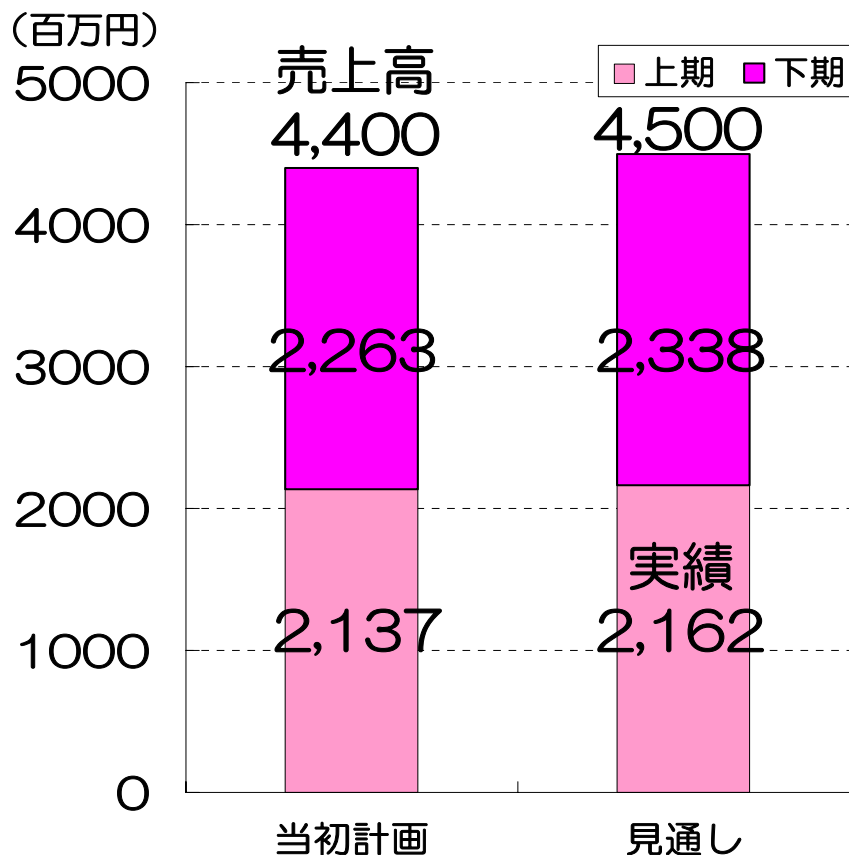
感光性材料事業 通期見通し

- ・ 売上高は、LCD用途向けの好調持続と、半導体用途向け回復により、当初計画とほぼ同水準となる見通し。
- ・ 営業利益は、増収効果と生産性向上により通期で赤字解消を見込む。



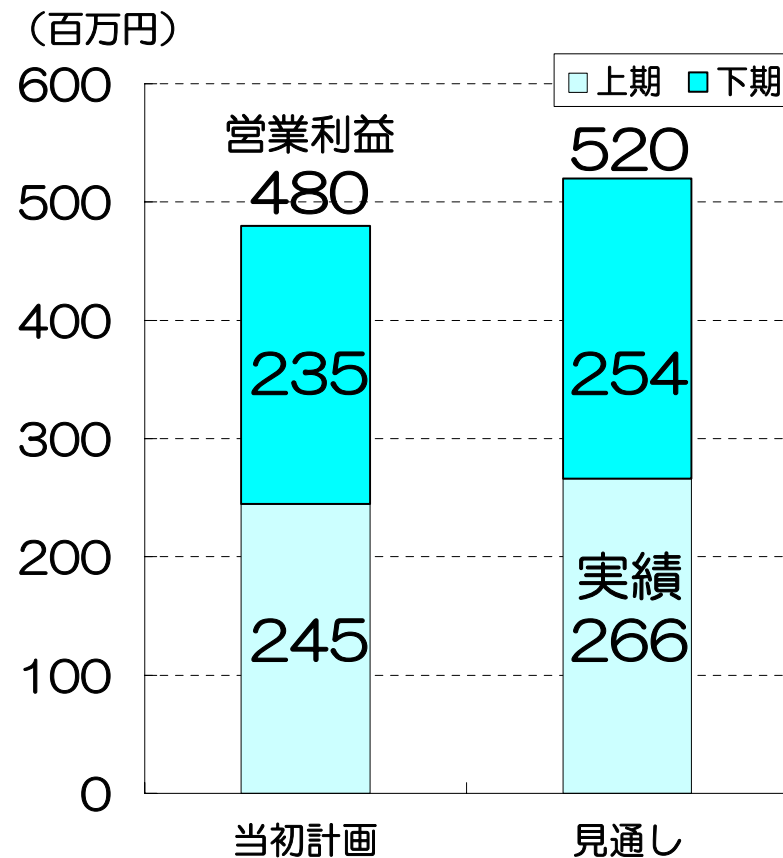
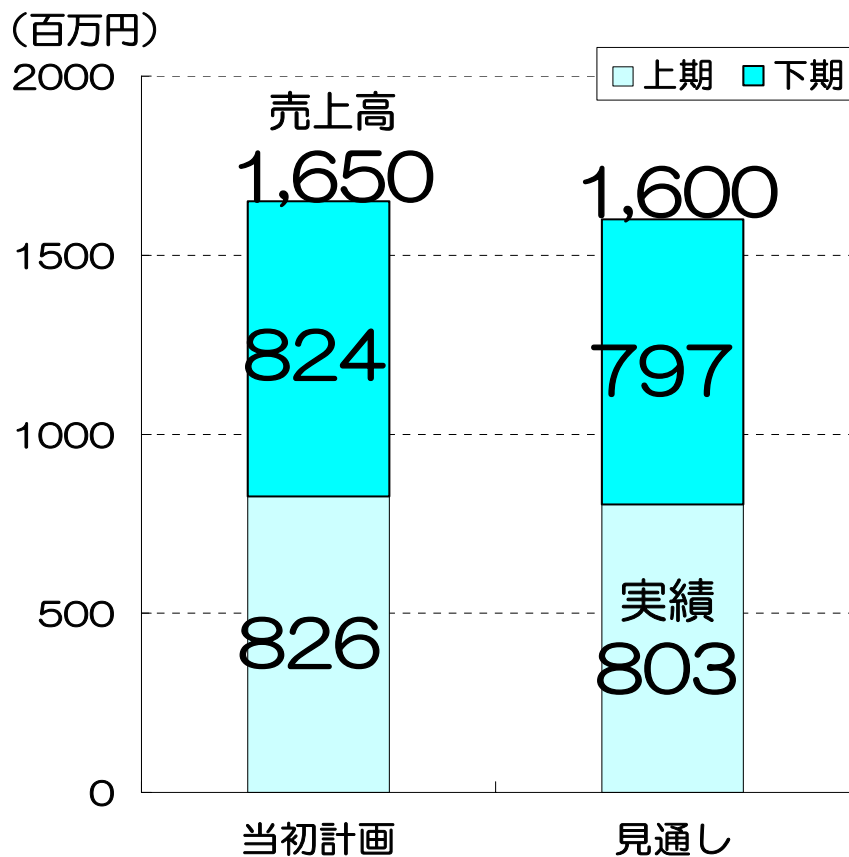
■ 化成品事業 通期見通し

- 売上高は、香料材料好調持続と溶剤リサイクルの需要拡大で当初計画を上回る見通し。
- 営業利益は、原材料費上昇により、通期では当初計画を下回る見込み。



ロジスティック事業 通期見通し

- 売上高は、上期の実績を勘案し、微減の見通し。
- 営業利益は、経費削減や効率化を図り、当初計画を上回る見込み。



3 . 今後の展望

■感光性材料事業 展望

- ・ 液晶・半導体市場は着実に成長
- ・ 設備投資はほぼ一巡。原価低減と拡販に注力
- ・ 将来へ向け製品開発体制強化

レジスト市場は2008年まで年約10%成長

	液晶用		半導体用					
光源	g線	i線	g線	i線	KrF	ArF	ArF 液浸	EUV EB
ノード	～200nm	～100nm	～150nm	～90nm	～65nm	～32nm	45nm～22nm	32nm～16nm
アプリ	液晶テレビ PCモニター ロースペックLCD	プロジェクションTV ハイスペックLCDTV 層間絶縁膜	携帯電話 PCB	ipod	NANDメモリ MPU GBメモリ	NANDメモリ 2コア GBメモリ Ipod nano	4コア Penryn GBメモリ	複数コア TBメモリ フォトマスク
市場	季節要因はあるが、 今後も成長	プロジェクション TVの拡大 LTPS(PDA,カーナビ、 携帯電話)の拡大	緩やかに拡大	延命化	延命化	商業化 延命化	商業化間近	プロトタイプ露光機 販売中 露光機・材料開発中
対策	増産・拡販		生産プロセスの最適化			商業化		研究
	大型テレビ用感光 材の開発 利益管理体制強化	高感度品の開発 一部商業化	生産性向上	生産性向上 高解像度/高感度 化 新開発	高感度化 ポリマ設計	モノマー ポリマー 光酸発生材設計	光酸発生材設計 工程対応	初期化合物開発、 特許7件出願済み 高感度・低LER材料 開発中

■ エネルギー事業 展望

- ・ 量産品の出荷拡大
- ・ ニーズに応じたきめ細やかな研究開発を加速

電解液・イオン液体

- ・ 継続的営業活動により、電解液・イオン液体の認知度UP(CEATEC、日経CNBCなど)
- ・ 電解液・イオン液体を用いたキャパシタ・Liイオン2次電池の用途は徐々に拡大。
- ・ 商業化フェーズに入ったことから、製品ラインナップ拡大とイオン液体の原価を低減

市場

キャパシタ向け

キャパシタ

- ・ 協業体制から商業化へ

対策

- ・ 量産品販売開始
- ・ キャパシタとしての製品特性優位性を確認

Liイオン
2次電池向け

Li電池

- ・ メタル/有機不純物フリーの安全性/高純度/高品質の需要拡大

対策

- ・ 品質/性能優位性アピール

色素増感型
太陽電池向け

太陽電池市場

- ・ 市場サイズ小
- ・ 技術ハードル高い
- ・ 2008年商業化目指す

対策

- ・ イオン液体開発強化

対策

溶剤回収事業 展望

● 全社の一翼を担う中核事業へ

- 原油高による溶剤コスト圧縮ニーズ
- VOC排出規制など環境関連法規強化
- 電子材料向け金属パーティクル管理された溶剤



溶剤回収ニーズ
急拡大

印刷・粘着業界

印刷・粘着業界

- 景気回復

対策

- 業界団体と協力強化

電子材料業界

デジタル機器業界

- 電子機器生産拡大
- 部材コスト圧縮要請

対策

- 感光材/エネルギーとの協業強化

他製造業

他製造業

- VOC規制施行（2006）

対策

- ソリューション提示

市場

対策

- ロジスティックとの協業強化
- 蒸留50年の信頼、立地、技術、コストパフォーマンス
- VOC回収技術の確立、VOC回収装置会社との協業強化
- 生産拠点確保（市川工場タンク6基稼動 9月～）

■ 香料材料事業 展望

- ・ 大手香料メーカーに主力製品販売を開始、売上げ拡大
- ・ 事業は着実に拡大

市場

- ・ お客様香料企業（国内・海外）好調
- ・ 低コスト・高付加価値製品が望まれている

国内

国内

- ・ 少子高齢化の進行
- ・ 香料市場は横ばい

対策

- ・ 特定分野の強化
- ・ 協業体制強化

海外

海外

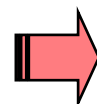
- ・ BRICs市場拡大
- ・ 世界主要香料メーカー
- ・ Fragrance分野が伸長

対策

- ・ グローバル企業への拡販強化
- ・ Flavor分野を強化

対策

- ・ REACH対応強化
- ・ 製造要素技術の充実
- ・ 新製品開発
- ・ 欧州に続き、グローバル販売チェーンの強化
- ・ 生産キャパシティ確保



市場開拓
価格競争力強化

■ 香料材料事業の海外展開

- ロッテルダム倉庫の稼働拡大
- ヨーロッパの取引先へデリバリーリードタイム短縮(30日→7日)し、RTM経由取引88%増大

～海外出荷実績 (06年度)～

アメリカ

USA、ブラジル、アルゼンチン、メキシコ

欧州

ドイツ、スイス、オランダ、イギリス、スペイン、アイルランド

アジア

シンガポール、日本、中国、インド、インドネシア、フィリピン、オーストラリア

■ ロジスティック事業 展望

- ・ 高付加価値サービスにより売上拡大
- ・ タンク容量増加4000kl/4基により売上拡大

市場

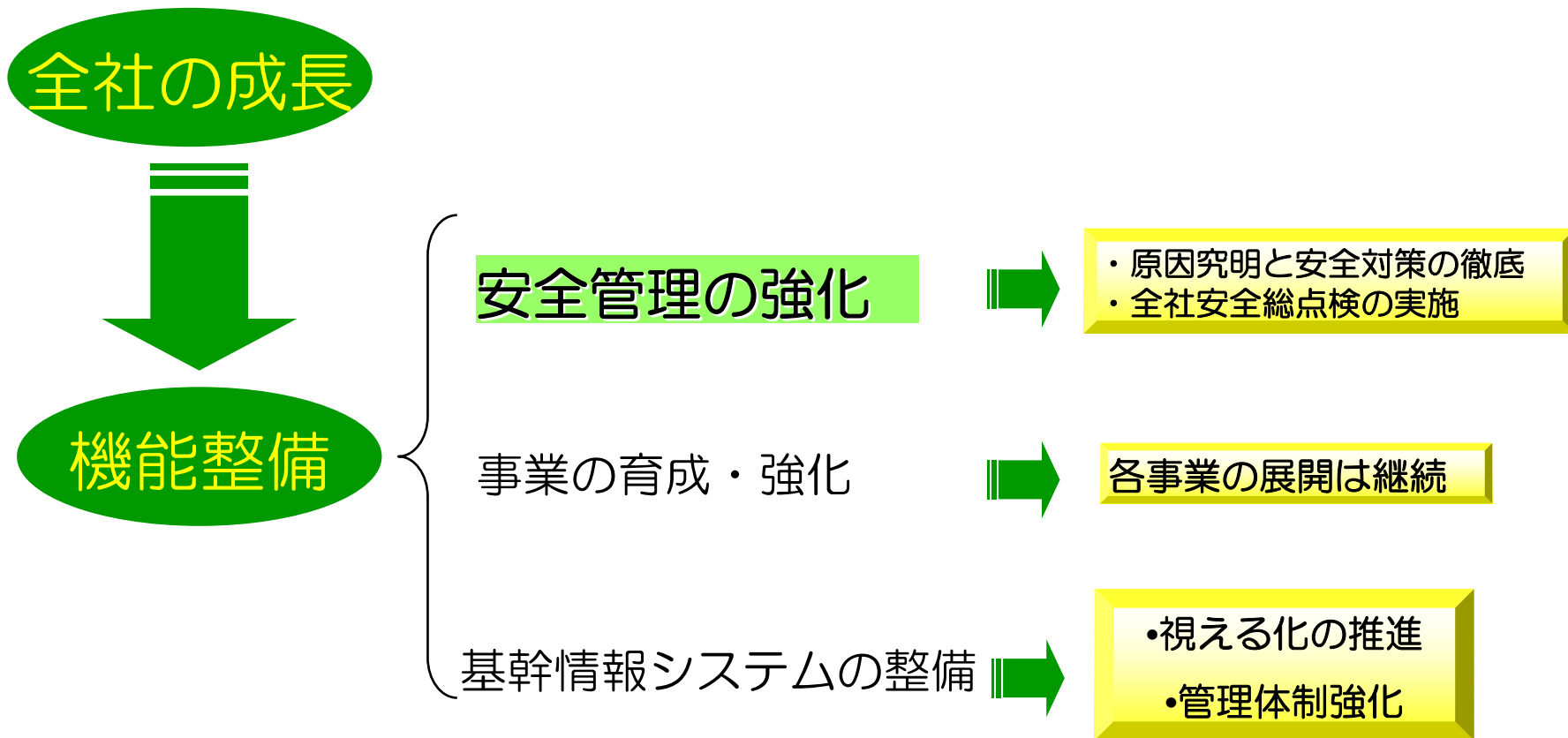
- ・ 需要は引続き好調
- ・ 日本の景気回復→中国品の輸入増加
- ・ 国内外荷動き好調

対策

- ・ 短期的契約でなく、長期契約を志向
- ・ タンク契約率97%
- ・ グリーンケミカル（回収溶剤）との協業強化
- ・ DRP対策（護岸）を実施

■ 東洋合成の方向性

- 火災事故に伴い、全社安全総点検を実施、安全管理を再度徹底
- 機能整備は継続し、経営基盤を整える



千葉工場 感光材第2工場 火災事故概要

- ・ 発生時刻: 2007年11月13日 (火) 10:20
- ・ 鎮火時刻: 13:00
- ・ 延焼場所: 千葉工場 感光材第2工場 1階 乾燥・包装室付近
- ・ 死亡者: 2名
- ・ 負傷者: 6名(怪我の具合: 当日回復)

- ・ 亡くなられた方やご遺族の方々に多大なる悲しみ、損失をおかけし、心より深くお詫び申し上げます。

- ・ また近隣住民の皆様、お取引先様、株主の皆様に、多大なるご迷惑、ご心配をおかけしましたことを、深くお詫び申し上げます。

- ・ 火災の原因については、現在調査中です。(2007年11月19日現在)

- ・ 今後かかる事故を二度と起こさないように、万全な注意を払うことをお約束し、再発防止に徹底的に取り組み、安全点検体制の強化を行います。

千葉工場と火災事故現場 概要



感光材第3工場

感光材第1工場

～千葉工場全体外観～

感光材第2工場
火災現場



～感光材第2工場外観～



東洋合成工業

（ご注意）

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクによりこの業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。